

東証スタンダード市場（証券コード 6848）

投資家向け会社説明会

（協力：株主手帳）

東亜ディーケーケー株式会社
代表取締役社長 高橋 俊夫

2022年11月29日

I) 会社概要

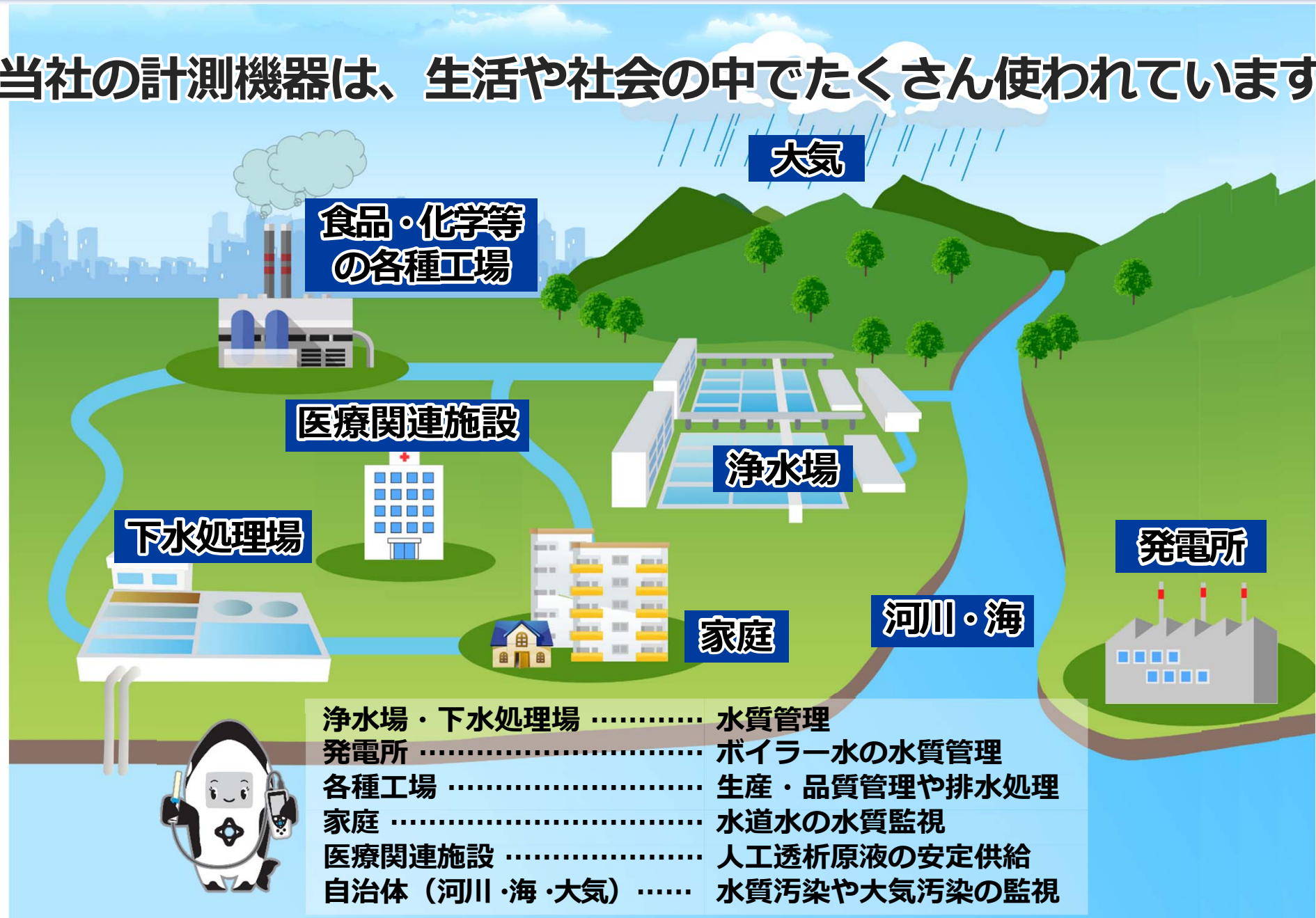
- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none">1. 計測機器はどこにある？2. 私たちの生活と計測機器3. 当社の計測機器事業4. 合併後20年の歩み5. 拠点・グループ企業6. 市場シェア | <ul style="list-style-type: none">7. 当社の強み8. 業績が安定している理由9. 成長に向けて10. ESG経営11. 中期経営計画12. 株価・株主還元 |
|---|--|

II) 足元の業績（2022年度上期実績と通期予想）

注記がない限り、本資料に記載された財務数値及び業績予想は、原則として連結ベースで記載しております。本資料の金額は単位未満切捨てで表示しております。これにより、合計が合わない場合があります。比率は小数点第1位未満四捨五入で表示しております。

1. 計測機器はどこにある？

当社の計測機器は、生活や社会の中でたくさん使われています



2. 私たちの生活と計測機器

水道水はいつも
安全安心



水道水用水質
自動測定装置
(停電時72時間対応)



公園など家庭の
近くに設置され
7項目連続測定

インフラ

ラボ用
水質計



食品・飲料工場で
pHなどを測定して
品質や味を管理

今日もビールが
うまい!



各種工場

安心して魚を
食べられるね!



全窒素・全りん/
COD自動
測定器



油膜
検知器



下水処理場や工場で
排水を常時監視

海・河川

大気

PM2.5
測定装置



洗濯物を外に
干せるかな?



大気観測局でPM2.5など
大気汚染物質を測定

「水・大気・医療・ガス」分野の計測機器

水	大気	医療	ガス
環境・プロセス分析機器 水道水用水質自動測定装置 pH計 電気伝導率計 油膜検知器	PM2.5測定装置 国内シェアNO.1 大気SO₂SPM測定装置	医療関連機器 透析用薬剤溶解装置 エンドトキシン計	産業用ガス検知警報器 ケミルミアルシン計

科学分析機器

ラボ用水質計

ポータブル用水質計

当社の事業と関係性の深いSDGs

6 安全な水とトイレを世界中に



安全で美味しい水道水の監視

14 海の豊かさを守ろう



水質汚染の監視
(排水モニタリング)

11 住み続けられるまちづくりを

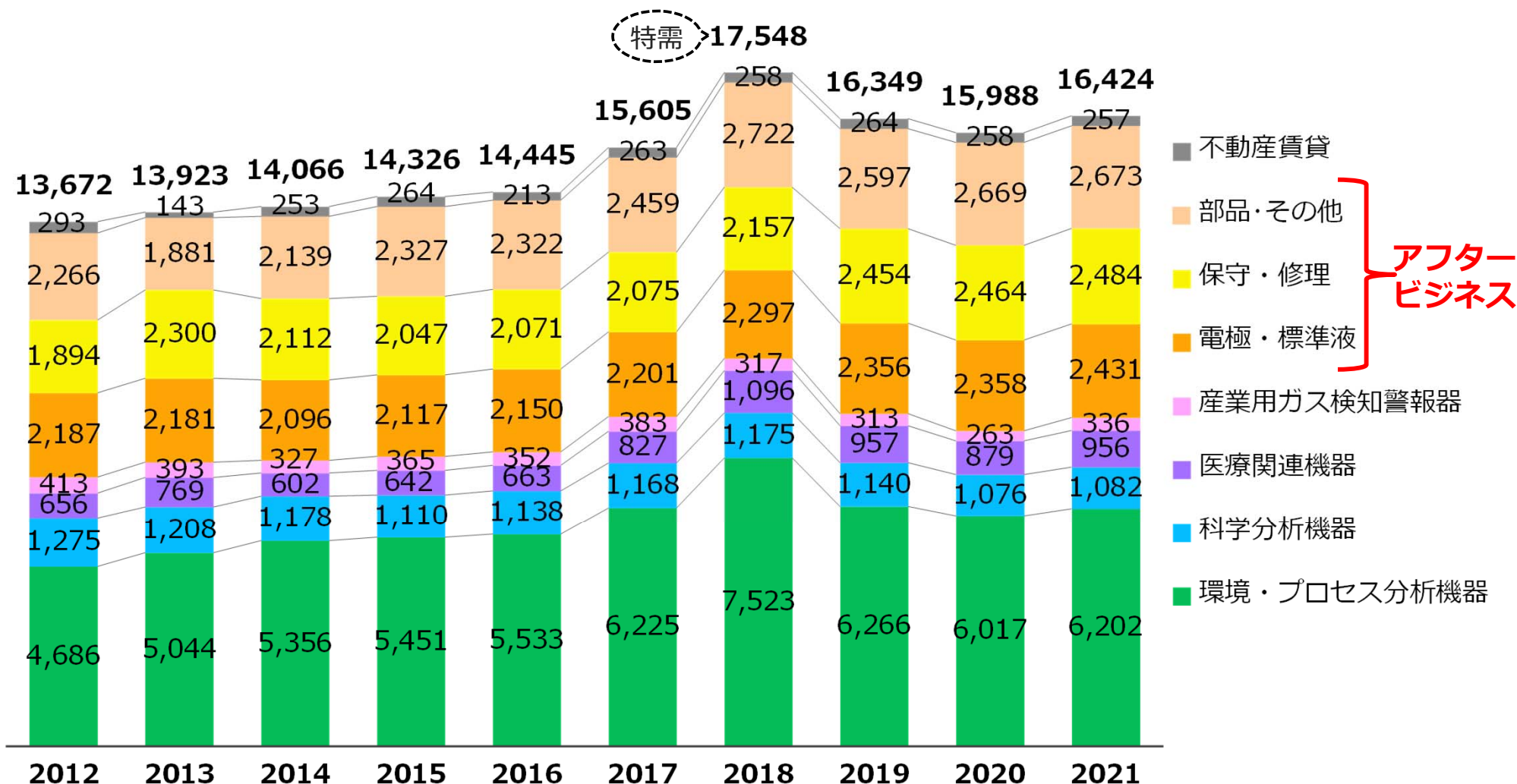


大気汚染の監視

構成比に大きな変化はなく、安定した売上推移

分野別売上高構成推移

(単位：百万円)



4. 合併後20年の歩み①

2000年 東亜電波工業と電気化学計器が合併し 東亜ディーケーケー 誕生



TOA

東亜電波工業

- 1954年
卓上型pH計 HM-5(A)が
2014年「分析機器・
科学機器遺産」に認定



- 1979年
臨床検査機器
(医療分野に
参入)



DKK

電気化学計器
(DKK)

- 1970年
日本初
「大気中オキシ
ダント計」



- 1970年
日本初
「河川水質
監視装置」
(淀川と多摩川に設置)



TOA DKK

2005年 米国ハック・カンパニー
(HACH) と業務・資本
提携



2013年 東証第一部上場

2024年 創立80周年

4. 合併後20年の歩み②

会社



2000年
東亜電波
工業と電
気化学計
器が合併



2005年
ハック社
と提携



2010年
開発研究
センター
完成



2013年
東証一部
に上場



2017年
医療関連
機器生産
棟完成

事業



2002年
第5次水質総量規制
にいち早く対応した
「全窒素・全りん／
COD自動測定装置」



2008年
端末監視で国内トッ
プの座を確立した
「水道水用水質自動
測定装置」



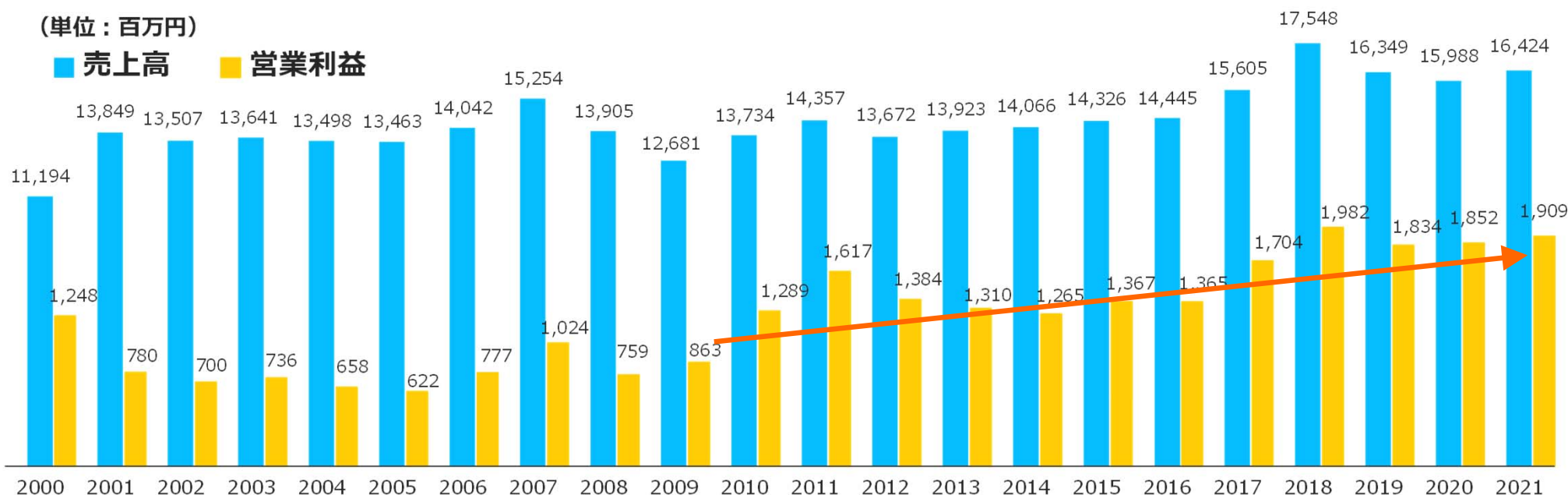
2009年
PM2.5の環境基準が
制定され、国内トッ
プシェアを獲得した
「微小粒子状物質
自動測定装置」



2018年
メタウォーター社
より水道水質計
事業を譲受

(単位：百万円)

■ 売上高 ■ 営業利益



5. 拠点・グループ企業（国内）

全国でキメの細かい販売とサービス

営業拠点：10か所

代理店・特約店：78社（拠点：200か所）

連結グループ会社：4社

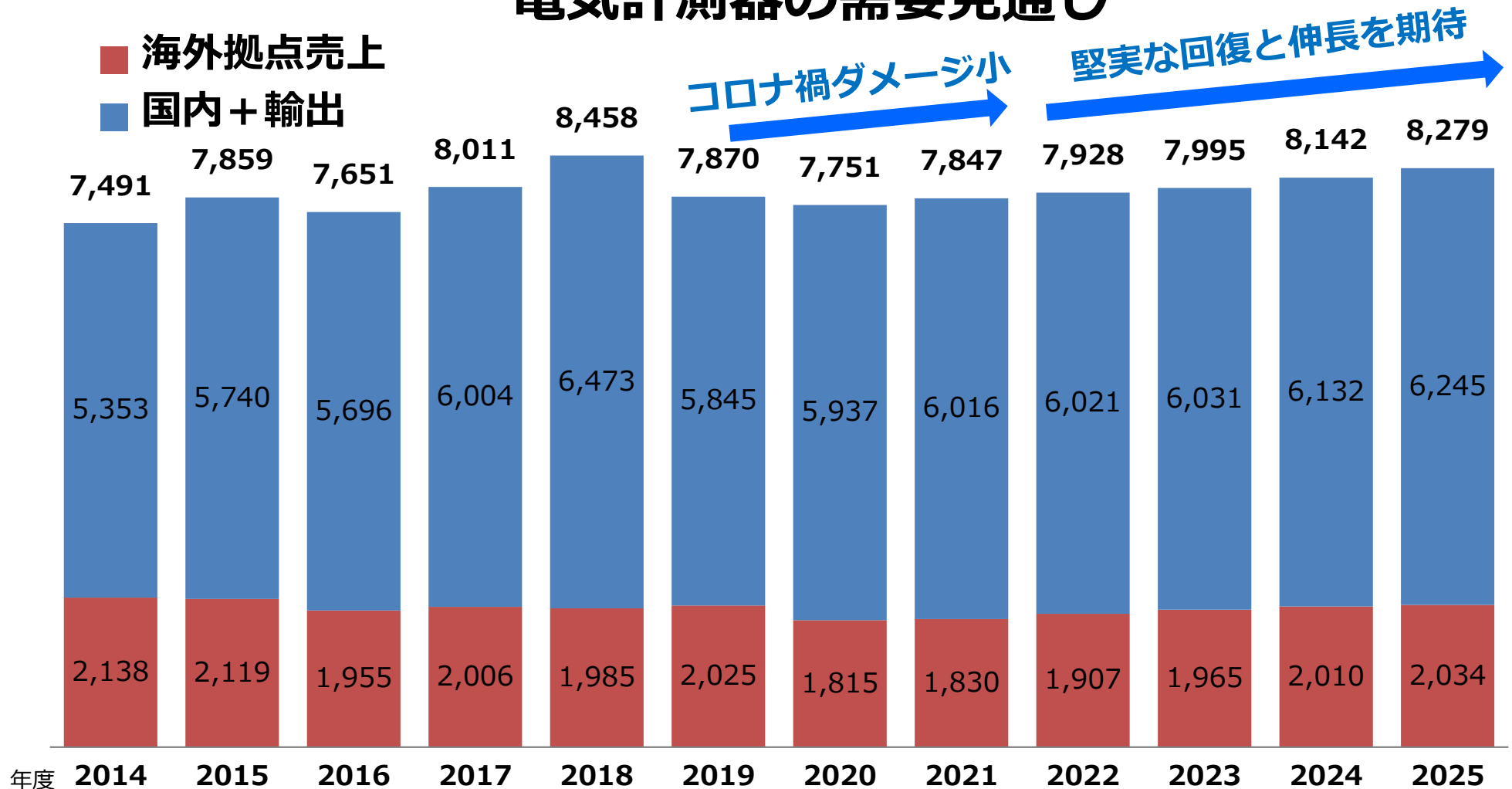
- 本社
- 営業拠点
- 事業所
- ▲ 連結子会社



(単位:億円)

「産業のマザーツール」として堅調に成長

電気計測器の需要見通し



※2021年度以降は見通し

(出所) 一般社団法人 日本電気計測器工業会

pH計やPM2.5測定装置で国内トップシェア

水



- ・ P H計
- ・ 濁度計
- ・ 残留塩素計
- ・ 電気伝導率計
- など

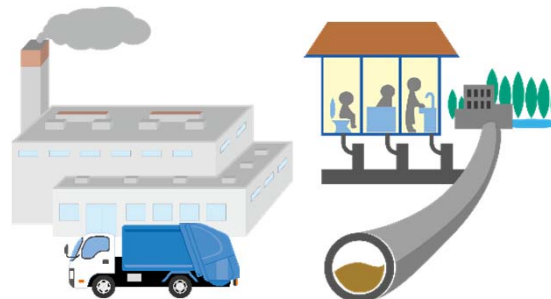
シェアの高い市場

浄水場

下水処理場、清掃工場、
各種工場



上水処理



下水・排水処理／
環境水質監視

大気

P M2.5
測定装置



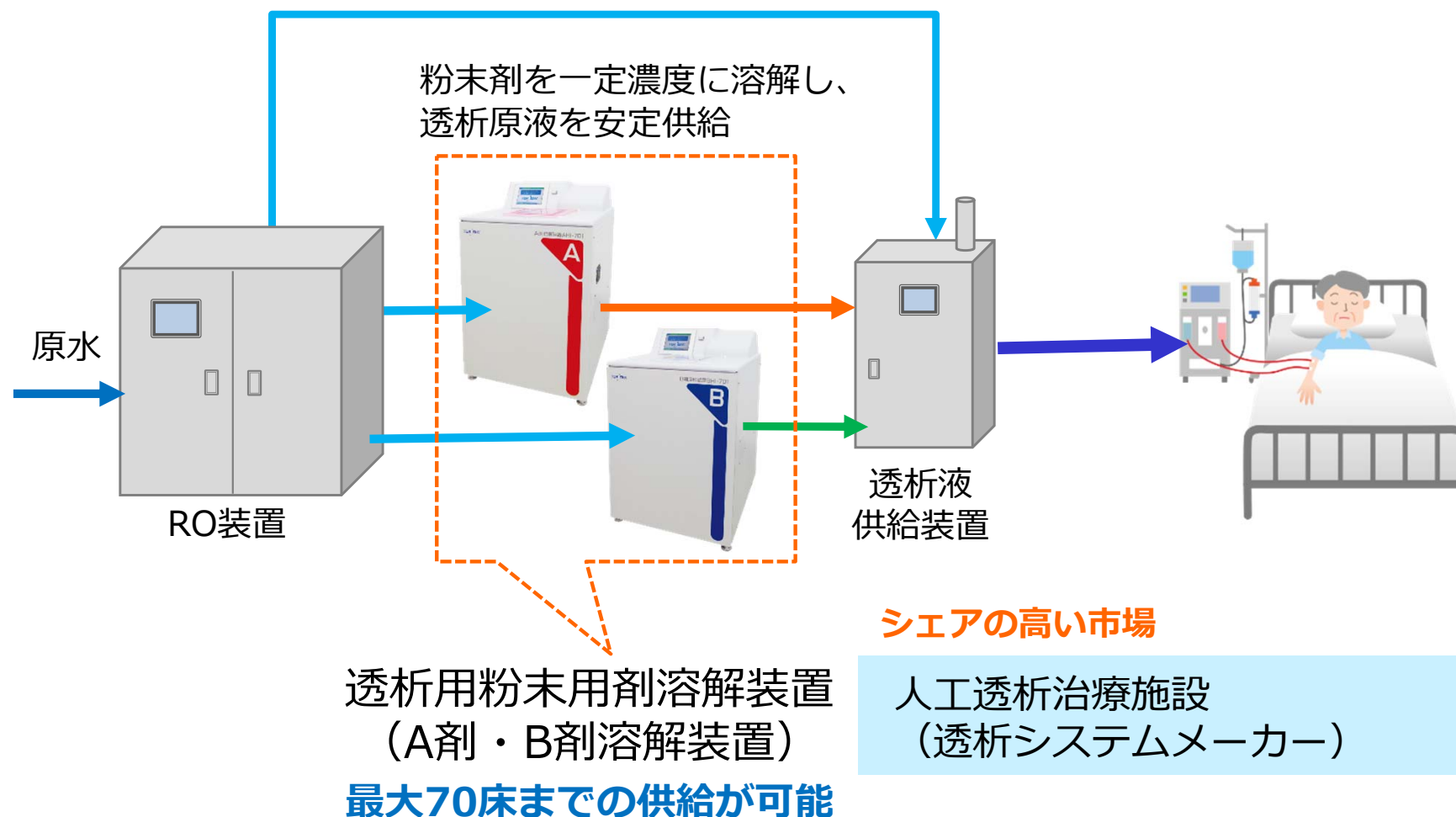
環境省や自治体の
大気汚染測定局



環境大気監視

データ元：環境省の大気汚染物質広域監視
システム「そらまめ君」

透析装置システムで国内7割以上のシェア



3つの強み

pH計、電気伝導率計などの創立以来蓄積された技術

- 長年培ったセンサーのコア技術
- 部材・部品の最適な組み合わせ
- 幅広い用途に対応



熟練工による微細ガラス加工
(岩手東亜DKK)

公的機関はじめ、幅広い業種の企業とお取引

●官公庁

浄水場、下水・し尿処理場、
清掃工場、全国の大気測定局

●民間企業のあらゆる工場がお客さま

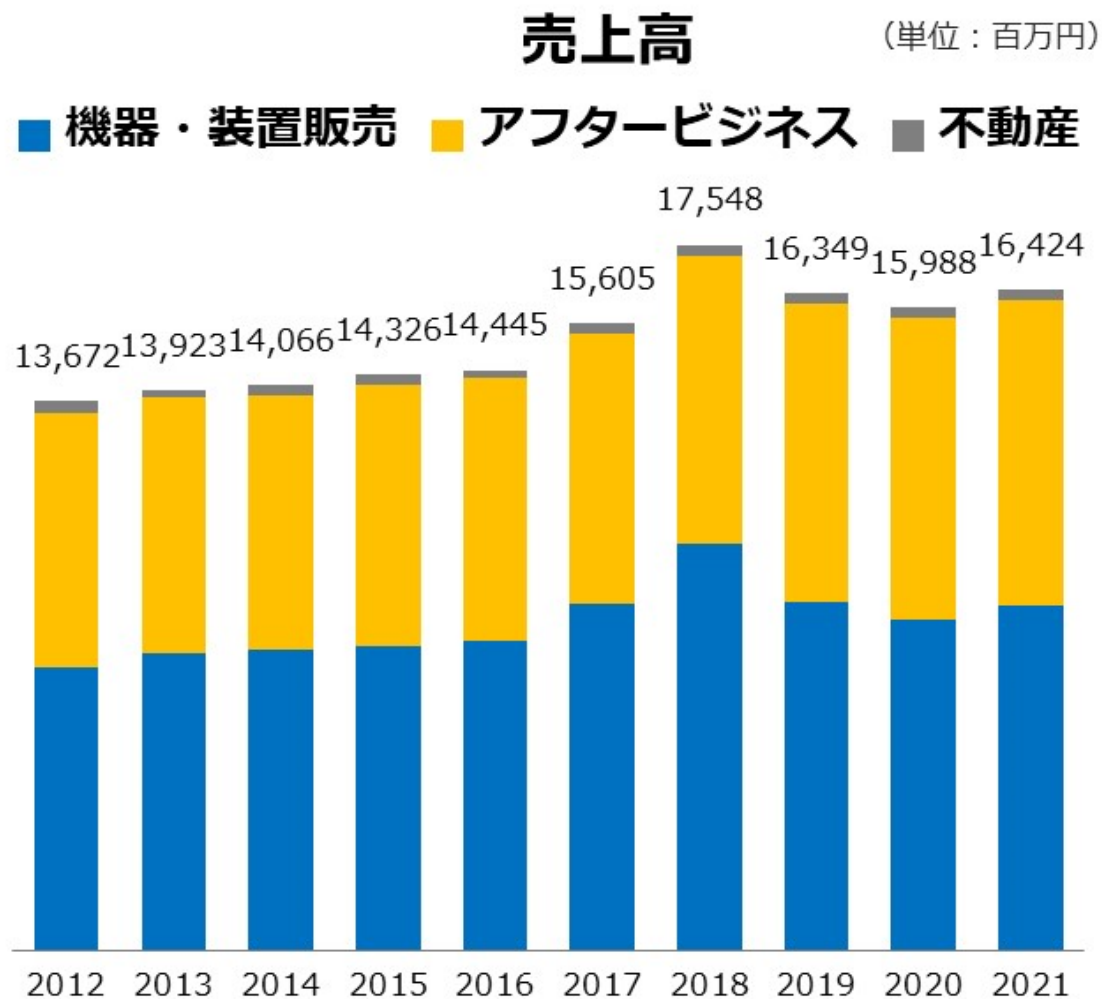
発電所、半導体工場、
石油・化学工場、製鉄工場、
製紙工場、食品・飲料工場、
自動車工場、家電工場などの
ほか、プラント（装置）
メーカーや重電メーカー

開発・製造・販売からアフターサービス（保守・修理）までの一貫体制



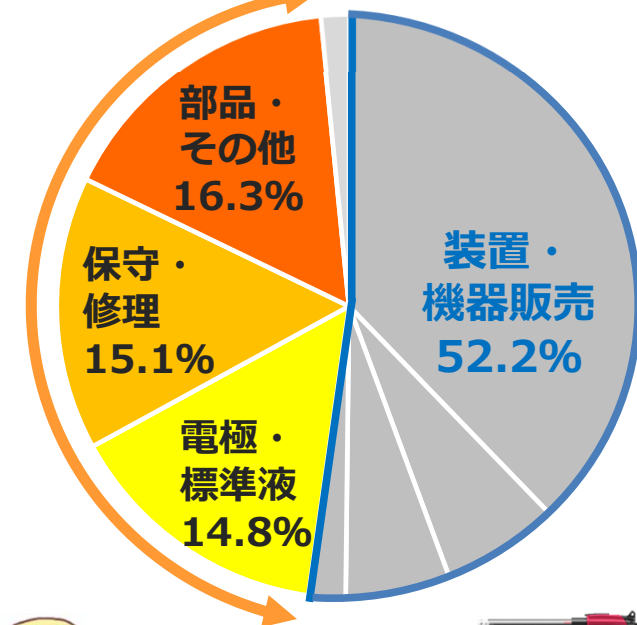
8. 業績が安定している理由

機器販売とアフタービジネスの両輪で 安定した業績を堅持

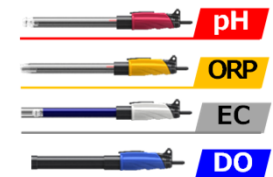


アフタービジネス

2021年度実績



pH標準液



電極

水道、電力などインフラ施設に
設置されており、部品交換・保守
はコロナ禍でも行われた

世界的な環境保全強化に伴い 40か国に販売

(2021年度実績)

海外代理店は17か国31社

中東

海水淡水化プラ
ントや発電所の
水質管理



インド

大気測定局での
大気汚染の監視



中国

環境規制強化
に伴う工場排水
モニタリング



韓国

水道水の
水質測定



台湾

半導体工場
の水処理



東南アジア

環境規制強化
に伴う排水
モニタリング

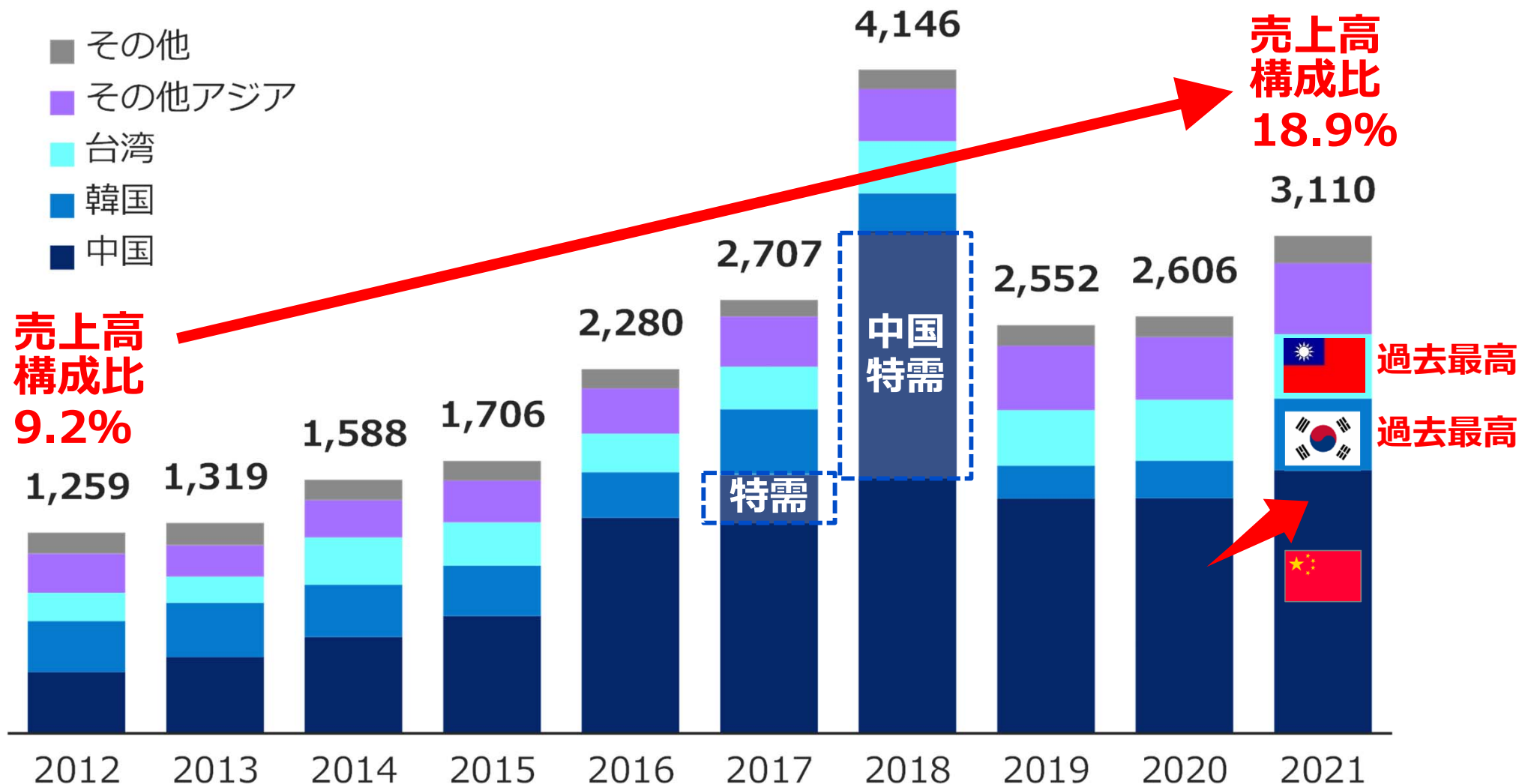


● 代理店所在地

9. 成長に向けて①海外市場-2

海外売上高の推移：ベースは増加傾向

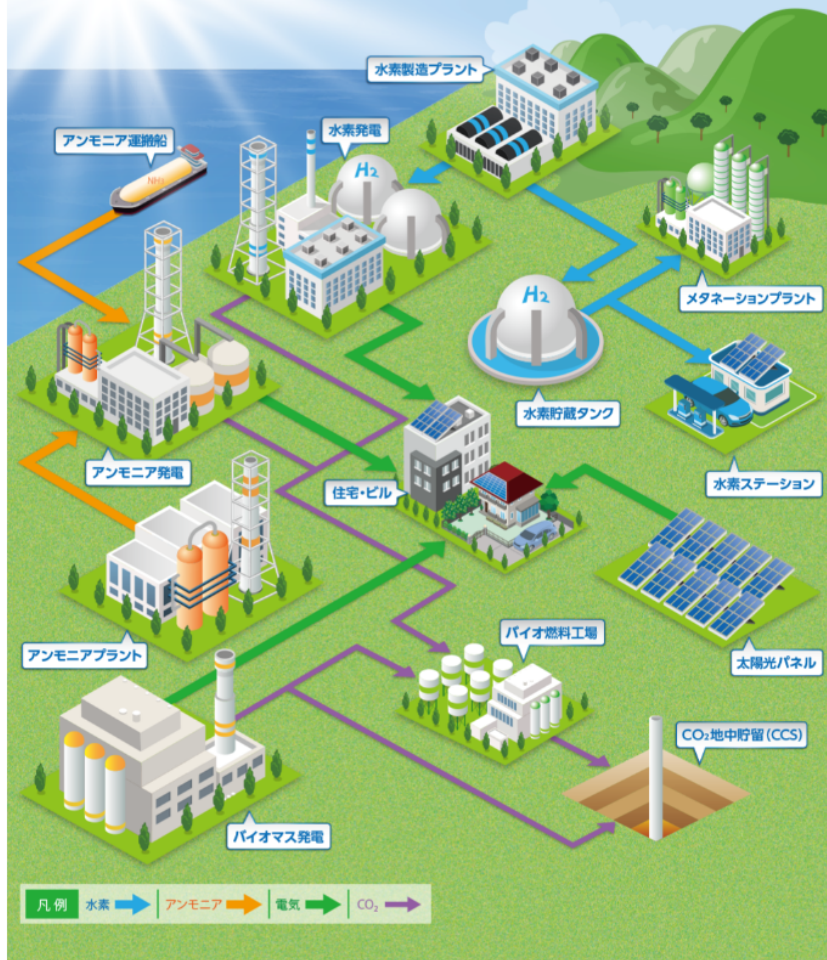
(単位:百万円)



9. 成長に向けて②グリーン電力市場

グリーン 成長戦略 関連製品 のご紹介

東亜ディーケーケーは、水素製造プラント・水素発電・アンモニア発電・バイオマス発電・CCSなど、カーボンニュートラルに必要なさまざまなプロセスにおいて、当社独自技術によるソリューションを提供します。



脱炭素化/グリーン電力 関連製品ラインナップ



工業用 pH 計変換器
HBM-160B



パネル型 pH 計調節計
HBM-100B



本質安全防爆型 pH 計変換器
SHBM-161



工業用電気伝導率計変換器
WBM-160



パネル型導電率計
WBM-100



本質安全防爆型
電気伝導率計変換器
SWBM-161



COD 自動測定装置
CODR-400



ボイラーサンプリング装置
BSC



プロセスガスクロマトグラフ
5000 シリーズ



ガス検知警報器
STX-PA(拡散式)
SH-1003PA(吸引式)

9. 成長に向けて③水道事業

水使用量の減少
設備の老朽化
職員の高齢化

小規模の
水道事業体
の運営困難

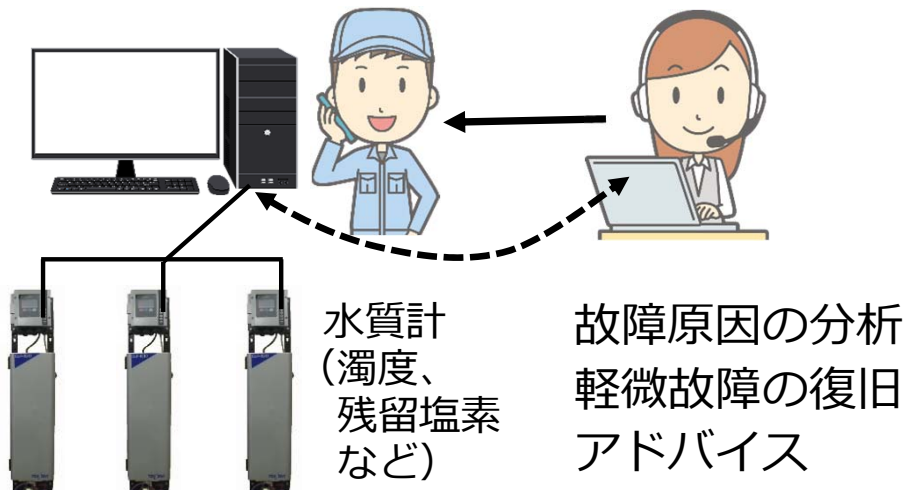
広域化
民間委託化
省人化・効率化

デジタル通信対応

IoTで遠隔監視、リモート
メンテナンスが可能な水質計

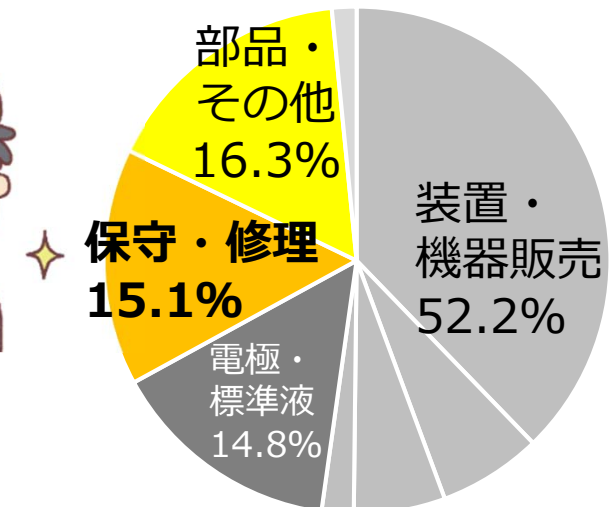
浄水場

サービス会社



アフタービジネス拡大

全国の直系サービス会社による定期点検や長期保守



無限に広がる計測対象

アジアの
環境改善
対策

世界の
水不足問題

グリーン
エネルギー
の普及

アジアの
透析患者
増加

国内労働
人口減少で
無人化・
省力化

環境の
法的規制
の強化

農業/
養殖/酪農
のIT化

予防医療
の進化

計測技術は現代社会の生活・産業において欠かせないインフラで
社会環境の変化で市場は日々拡大しています

10. ESG経営

環境配慮

再エネ100宣言 RE Action

2022年度中にCO₂排出
実質ゼロ化を目指す



働きやすい職場



社会貢献

当社製の次亜塩素酸
ナトリウム活性水を
寄付



トピックス①

EcoVadisで ブロンズ評価 (外部からの評価)

エコバディスは企業のESG
関連取り組みの評価機関で、
環境、労働慣行と人権、倫理、
持続可能な資材調達の4分野に
ついて評価を行う

トピックス②

サステナビリティ 委員会を設置 (2022年10月)

基本方針の策定、組織横断的
な取り組みの検討・検証、
取締役会への進捗報告等

中計で目指すもの

1. 脱炭素への取り組み等を通じた環境保全、並びに医療関連事業において社会貢献
2. 高い満足度でお客さまから一番に選ばれる会社を実現
3. 経営基盤の整備と収益力の強化を通じた企業価値の更なる向上によりプライム市場に相応する企業

大型投資



経営指標

(単位:百万円/%)

	2021年度 実績	2024年度 計画
売上高	16,424	18,850
海外売上高比率	18.9%	21.7%
営業利益	1,909	1,900

11. 中期経営計画② 経営基盤強化

POINT 1

マザー工場機能を備えた新生産棟を建築し
新製品の開発から量産化をスピードアップ



完成イメージ

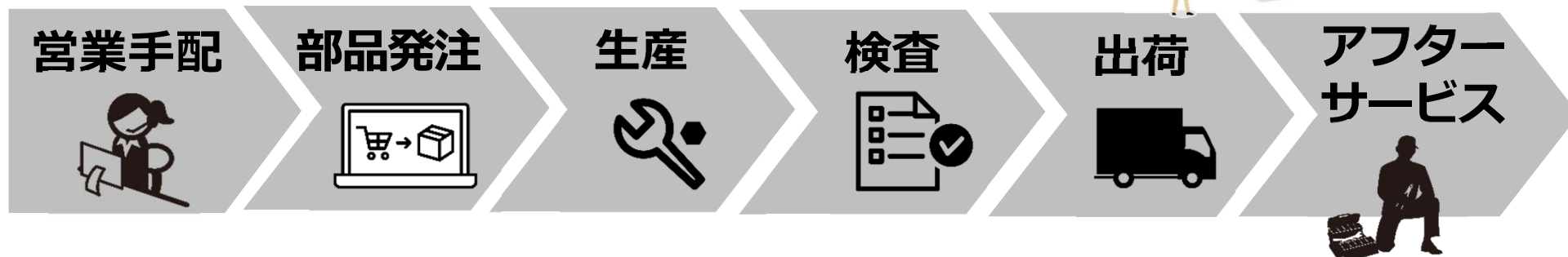
所在地	埼玉県狭山市北入曽613
建屋概要	延床面積 約8,200㎡ 地上4階建て鉄骨造
主な設備	多用途生産ライン、新製品量産試作ライン、試験設備、自動倉庫
着工／竣工	2022年3月／2024年2月予定
投資額	約27億円
環境対策	ネット・ゼロ・エネルギー・ビル（ZEB）

POINT 2

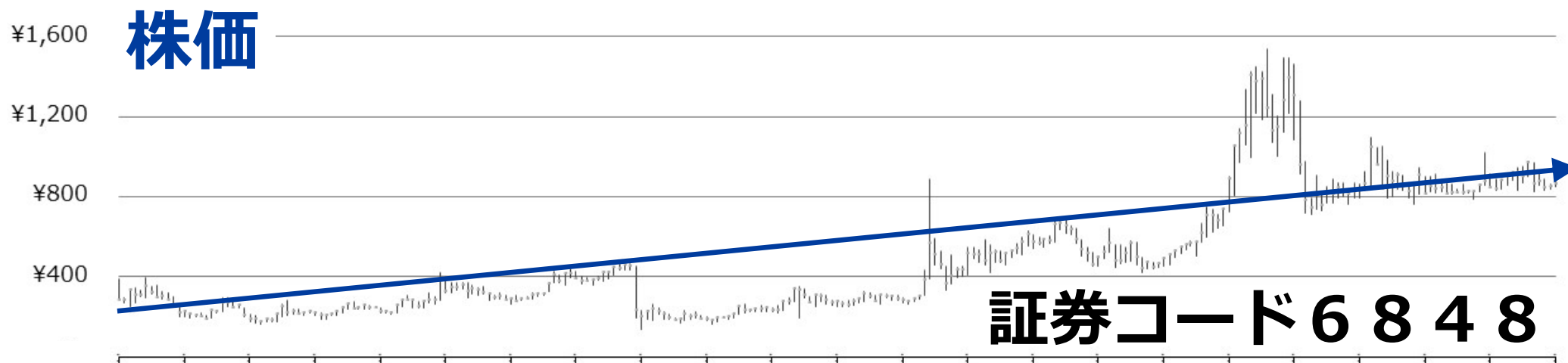
業務を一元化する新システムを構築し
徹底した効率化を推進



DX推進プロジェクト室
を新設



12. 株価・株主還元



一株当たり配当金

業績に応じ安定的な配当を継続



I) 会社概要

II) 足元の業績 (2022年度上期実績と通期予想)

- 売上高：部材調達の影響を強く受け減収
 （国内）官公需は例年並み、民需は堅調な設備投資により受注好調、
 売上高は横ばい
 （海外）主に中国・上海市ロックダウンによる現地生産一時停止で減収
- 利益：減収・原価率上昇・販管費増加により減益

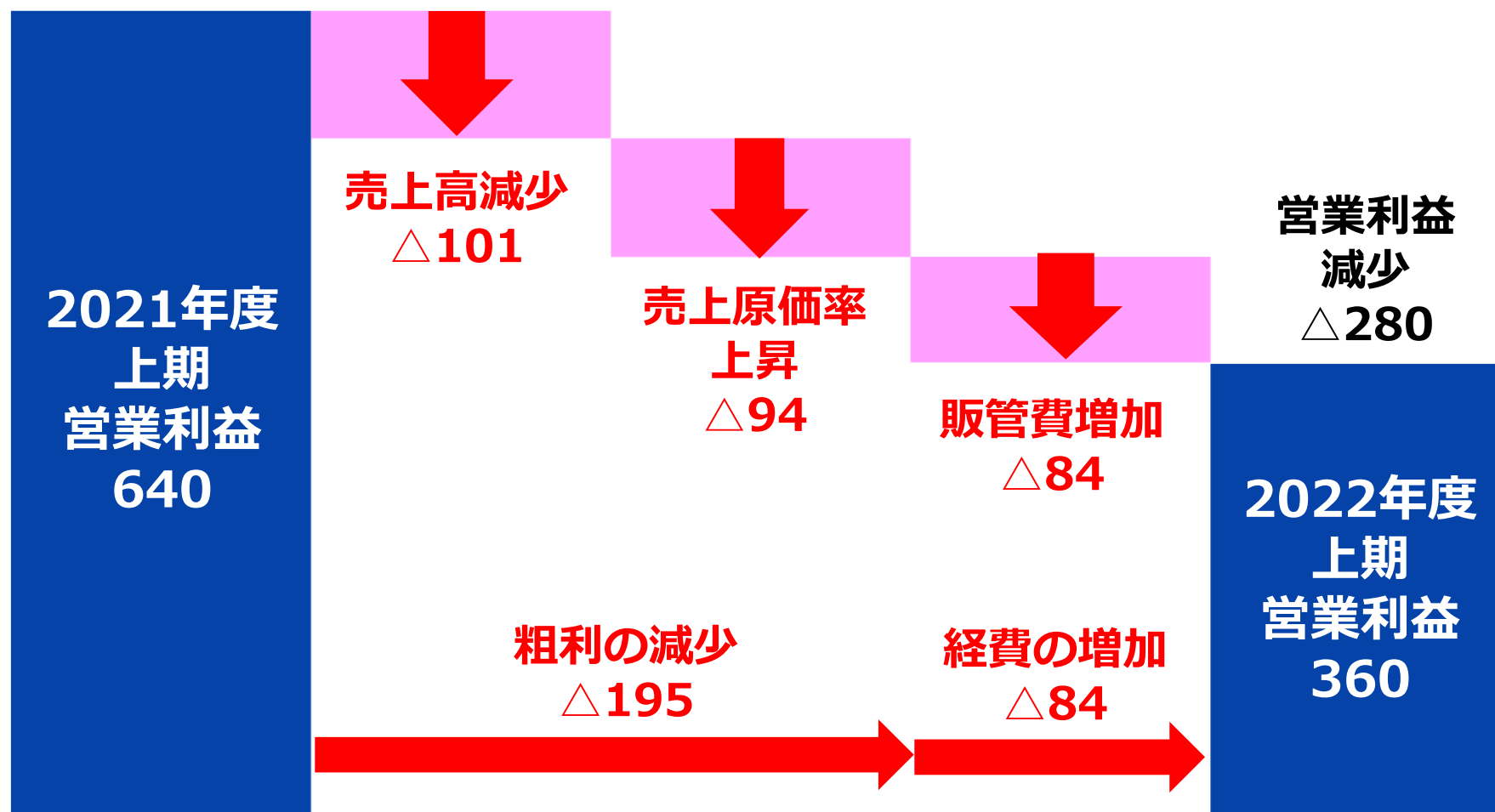
（単位：百万円）

	2021年度 上期実績	2022年度 上期実績	前年同期比増減	
			金額	率
売上高	7,434	7,154	△280	△3.8%
営業利益 売上高比	640 8.6%	360 5.0%	△280	△43.8%
経常利益 売上高比	673 9.1%	372 5.2%	△300	△44.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益 売上高比	465 6.3%	311 4.4%	△154	△33.2%

営業利益増減分析（前年同期比）



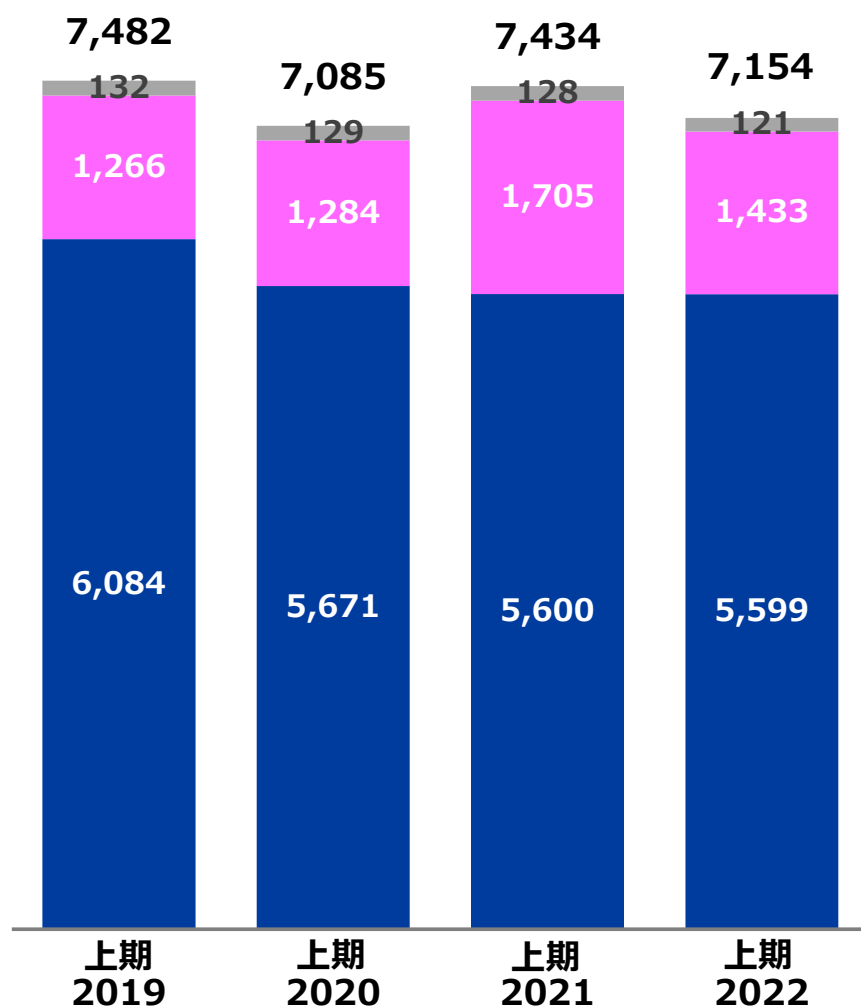
（単位:百万円）



(単位:百万円)

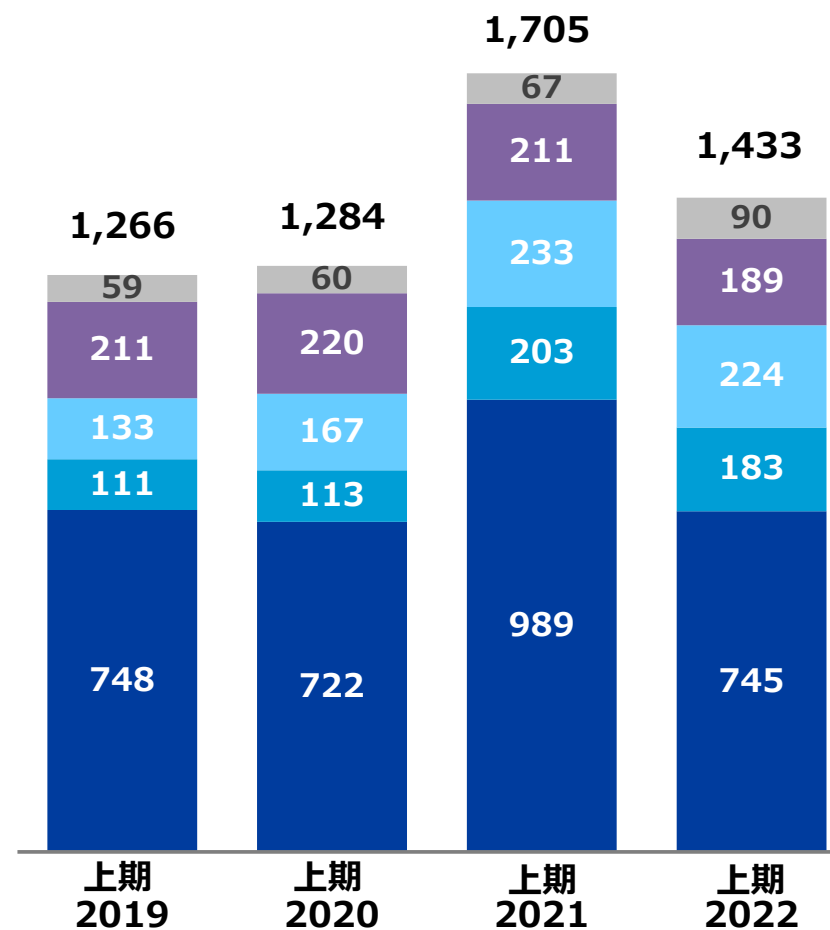
国内外の売上高

■ 計測機器：国内 ■ 計測機器：海外 ■ 不動産賃貸



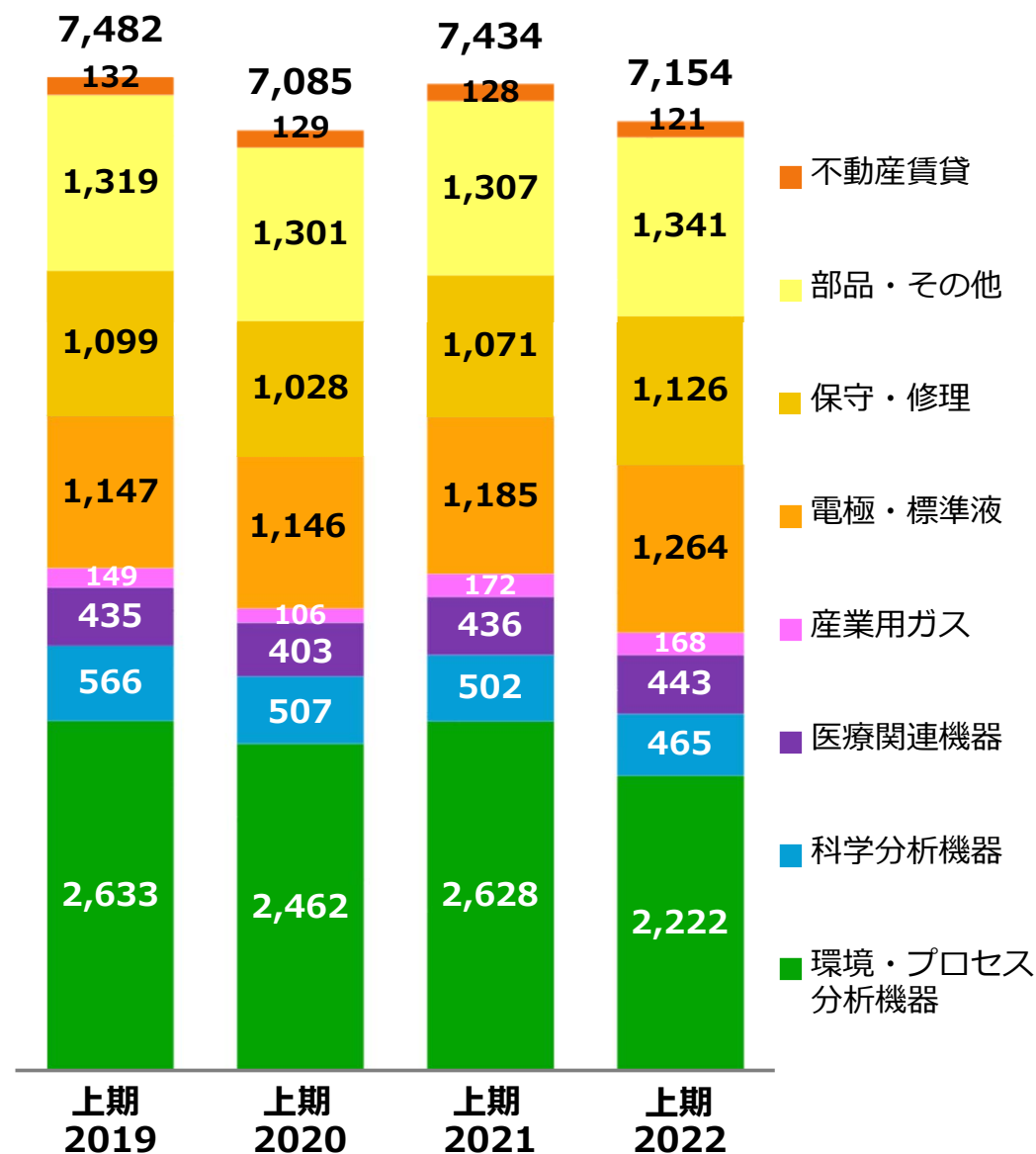
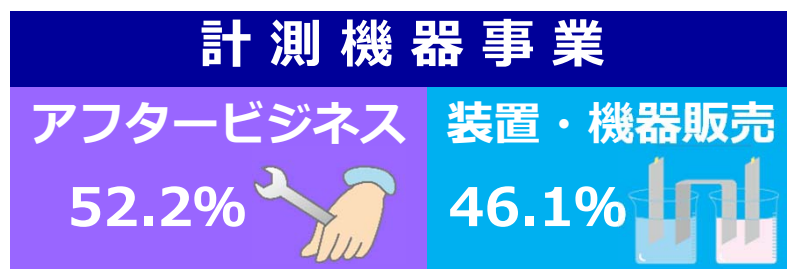
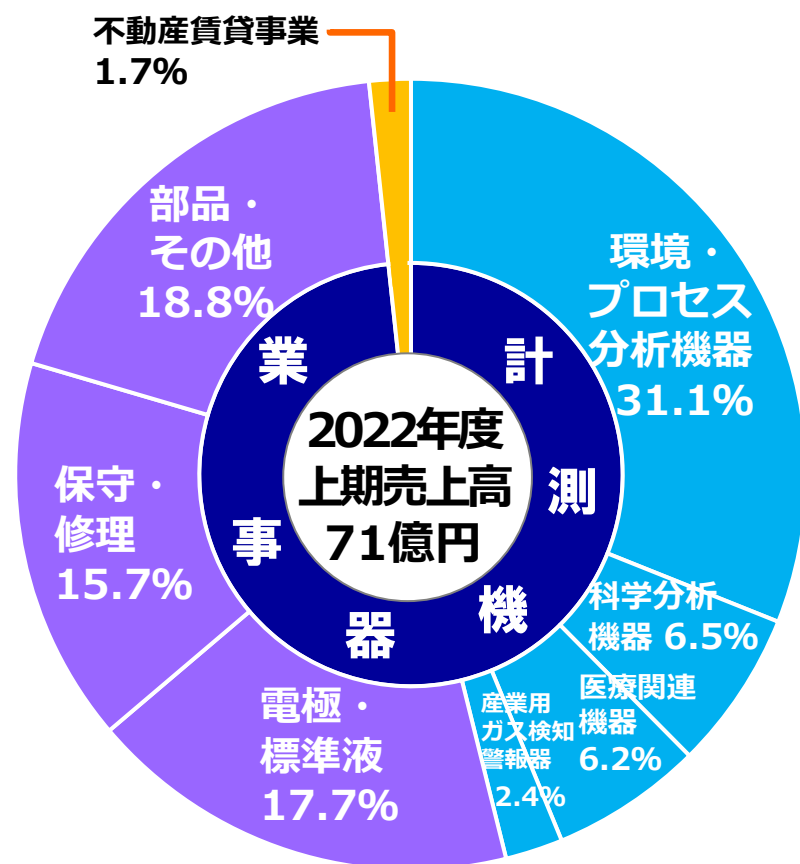
海外の国別売上高

■ 中国 ■ 韓国 ■ 台湾 ■ その他アジア ■ その他



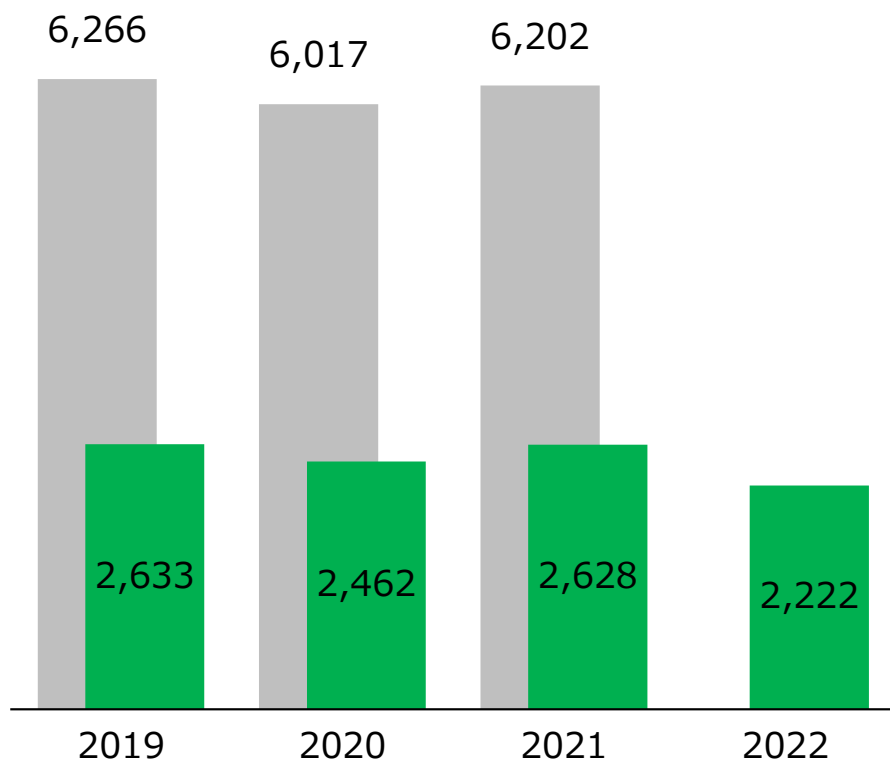
分野別売上高構成推移

(単位:百万円)



環境・プロセス分析機器売上高

■ 通期 ■ 上期 (単位:百万円)



■ 前年同期比 $\triangle 15.4\%$
(2021年度上期 vs 2022年度上期)

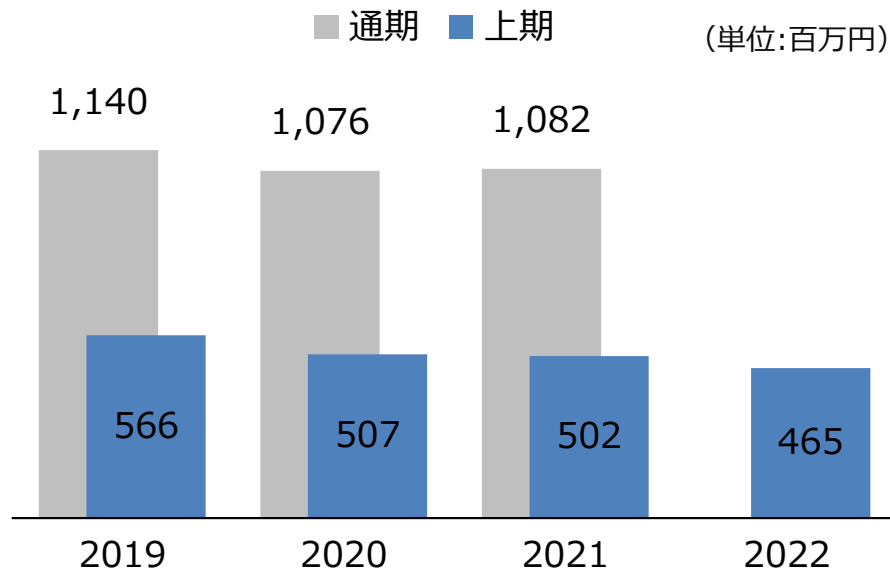
水

- 国内：官需やエネルギー関連が安定受注に加え、半導体設備関連の大型案件獲得で受注好調も部材入手難により減収
- 海外：中国・上海のロックダウンの影響減収。台湾等で半導体関連設備の受注は好調継続。

大気

- 国内：売上は前年同期に届かなかったものの、受注は例年並み
- 海外：インドがコロナ禍から回復し増収

科学分析機器売上高



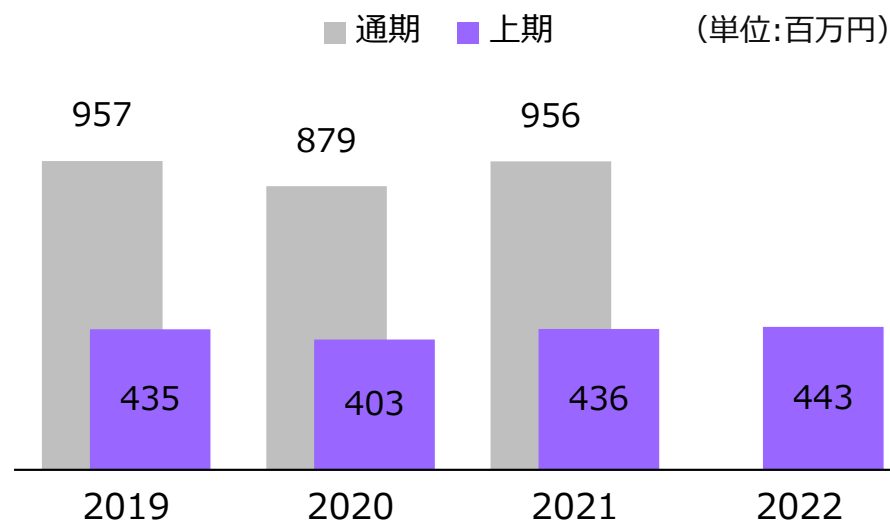
■ 前年同期比 $\triangle 7.4\%$
(2021年度上期 vs 2022年度上期)

- 大学や研究機関からの引き合いは回復基調で受注は堅調も、部材調達難により足元は減収

＜新製品＞
ポータブル多項目水質計



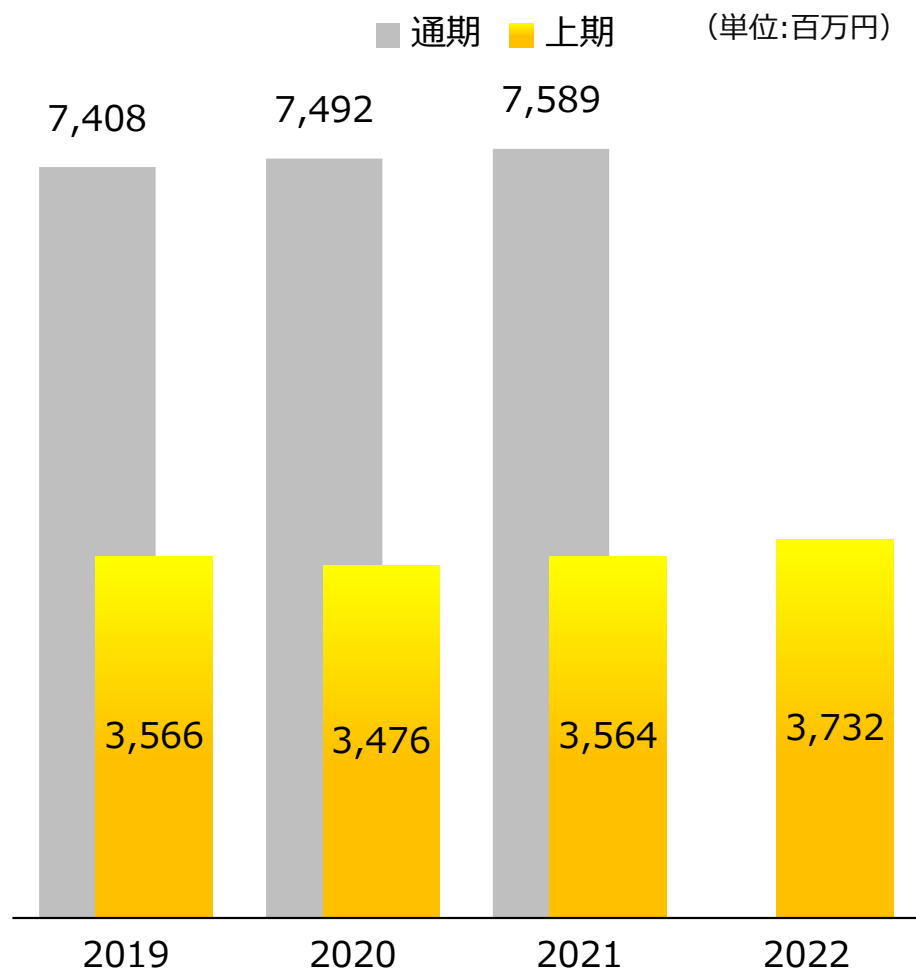
医療関連機器売上高



■ 前年同期比 $+1.6\%$
(2021年度上期 vs 2022年度上期)

- 病院の新規・買い替え需要は好調で受注は高水準も、部材調達難により微増収
- ☞ 透析システムメーカーの海外展開を後押し

アフタービジネス売上高 (保守・補用品)



■ 電極・標準液

前年同期比 +6.6%
(2021年度上期 vs 2022年度上期)

■ 保守・修理

前年同期比 +5.2%
(2021年度上期 vs 2022年度上期)

■ 部品・その他

前年同期比 +2.6%
(2021年度上期 vs 2022年度上期)

- 設備稼働維持のための定期点検が計画通り行われ、アフタービジネス全分野で増収
- 全体では前年同期比4.7%増

■売上高：部材調達難の影響に不透明感があるものの増収を計画

(国内) 設備投資は回復基調が続くと想定し、主力製品の拡販および
営業とサービスの緊密な連携によるアフタービジネスを強化

(海外) 各国の経済回復が進み、アジア地域での環境保全関連及び半導体
工場等での需要は引き続き堅調と想定し拡販

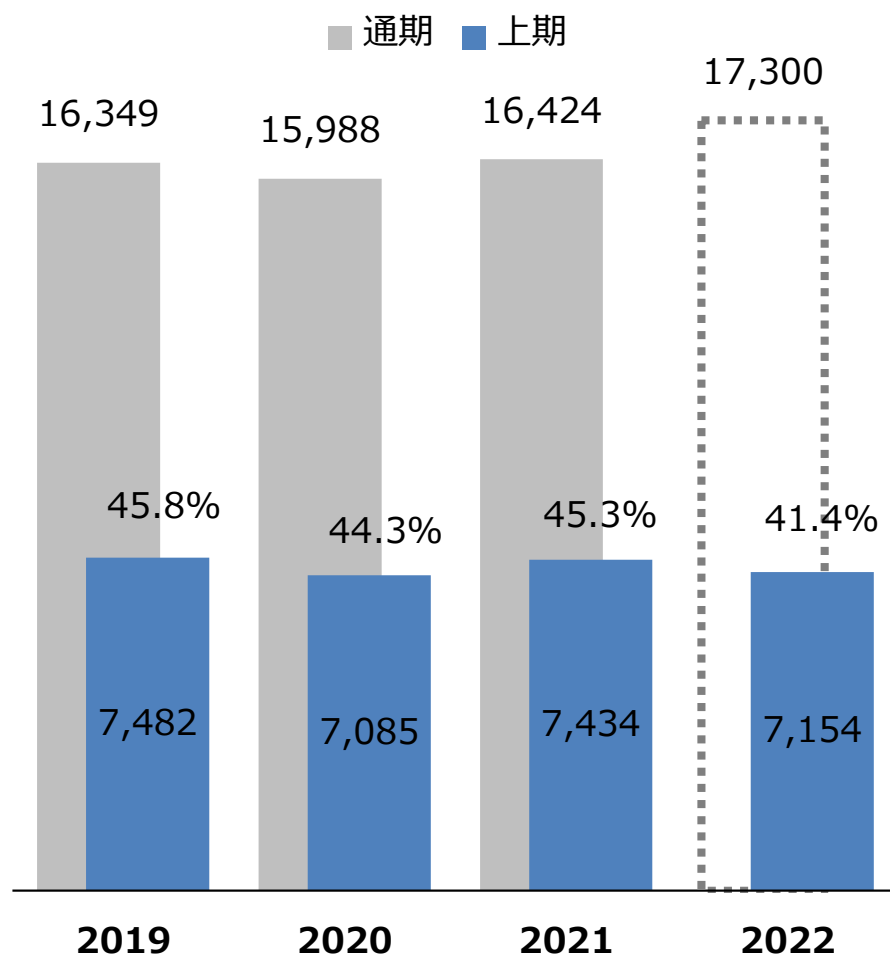
■利益：経費増加により減益予想

(単位:百万円)

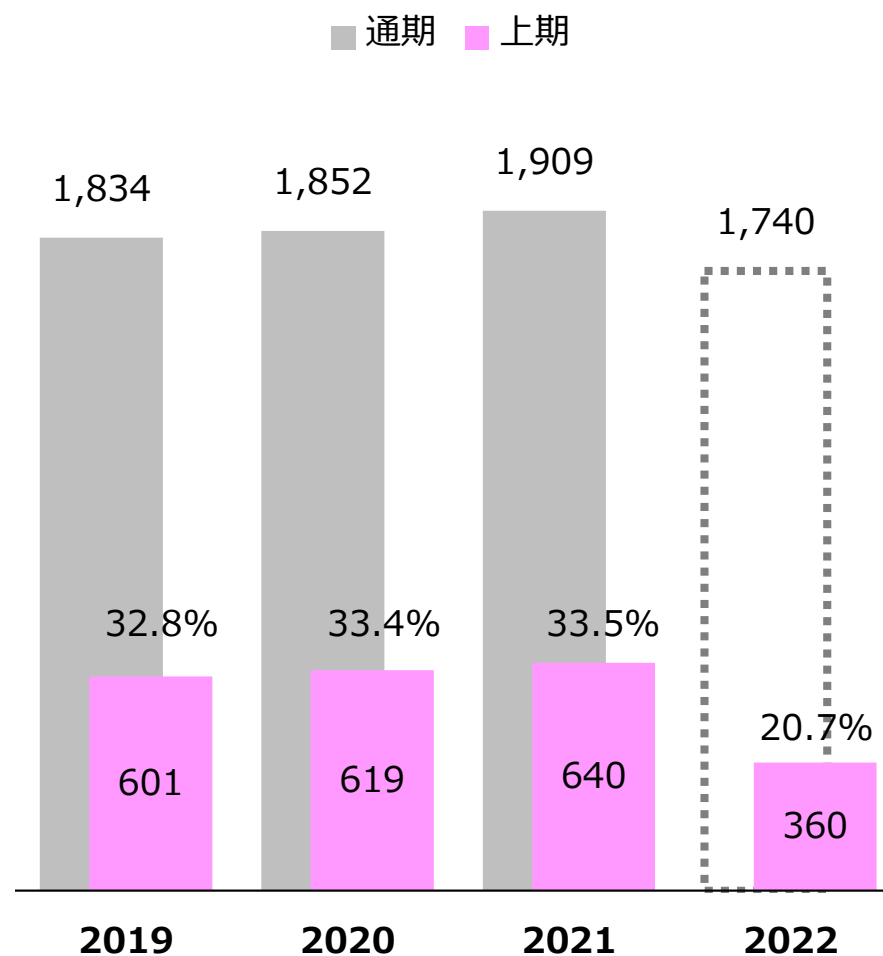
	2021年度 実績	2022年度 計画	前期比増減	
			金額	率
売上高	16,424	17,300	875	+5.3%
営業利益 売上高比	1,909 11.6%	1,740 10.1%	△169	△8.9%
経常利益 売上高比	1,968 12.0%	1,800 10.4%	△168	△8.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益 売上高比	1,347 8.2%	1,240 7.2%	△107	△7.9%

(単位:百万円)

売上高



営業利益



経営 理念

『誠実・創造・挑戦』をモットーに地球環境保全と豊かで人にやさしい社会環境の実現に貢献します。

開発部門



生産部門



営業部門



アフター サービス 部門



ご清聴ありがとうございました。

1. 本資料は当社をご理解いただくために作成したものであり、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。
2. 本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
3. 将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上でご利用ください。
4. 業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成しておりますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。
5. 本資料は、投資家の皆さまがいかなる目的にご利用される場合においても、皆さまご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。

＜お問い合わせ＞
東亜ディーケーケー株式会社
経営戦略部 経営企画課
メール：ir@toadkk.co.jp